

協働パイロット事業 (H22) 企画提案書

団体名： 玉川学区健全育成会

1. 事業の名称

住んでよし・訪れてよしの玉川にしよう

2. 事業方針 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください)

現在、中山間地では少子高齢化が進み、限界集落に入る集落も少なくありません。玉川地区も同様の問題を抱えています。しかしこのような問題を住民だけで解決することは不可能になっていきます。住民が高齢化し、地域活動への参加が鈍くなっているからです。昨年度の協働パイロット事業ではNPO法人開発教育 Funclub として申請し、玉川地区での住民参加によるワークショップが認められましたが、具体的な提案を中山間地振興課と話し合う中で、いきなり外部のNPOがワークショップについて地域住民の意識と乖離があること、地域の保守的な文化を踏まえ、既に存在する地域の組織や行事を活用しながら取り組む方が受け入れられやすいことなどの指摘を受け、何とが事業実施に向けて検討してきましたが、実施には至りませんでした。その間、どんな地域組織とコラボしていくことが最も得策であるかを考えました。その結果、次世代の地域を担うのは現在の子どもたちであること、子どもも社会参画が次代の社会を創造する上で欠かせないこと、子どもも活動は地域に受け入れられやすいことなど、子どもを主体として、地域、学校、PTA、NPO として「まち」の人たちが参加できる企画がベストであるとの結論に至りました。地域の中で、学校・地域・PTA が参加する組織に健全育成会があります。この活動として位置づけることにより、住民参加が促進されるであろうと考えました。

地域住民・学校・PTA・子ども・NPO が企画に参加し、子どもたちが主役となって「まち」の人たちにはふるさと玉川を紹介し、玉川ツアアのコーディネートをする。このことは、子どもたちや地域住民の郷土愛を高めると共に、ふるさとへの学びを呼び起こすことになり、運営の過程で、新たな絆をつくことになるでしょう。玉川では今までになかった試みです。また、「まち」の人にとって見れば、市街地からわずか40分程度のところに愛すべき文化や自然をもった美しい地域が存在することを人との交流から知ることになるでしょう。これは、新たなツーリズムといえるかもしれません。

3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと

行政には同じ課題をもつ中山間地住民、「まち」の住民へ、この企画への参加促進をお願いしたい。また、ぜひ企画段階からの記録をとっていただき、新しい中山間地開発の試みとして、今後の行政がどうか変わっていくかの議論を我々を始めとする関係団体の方たちと議論し合い、深める場の提供とそのあとの広報をお願いしたい。健全育成会は具体的なワークショップの内容の提案と地域・NPO を絡めた運営委員会の組織化を担当する。

4. 成果目標 (できる限り具体的に表現してください)

子どもガイドによる玉川ツアーに「まち」からの住民が参加することにより、新たな「まち」と「在」とのつながりができる。この企画では、昔、農産物や木材の交易で深い関係があった「まち」と「在」とのつながりを「あらたな人と人とのつながり」創造の機会と捉えることができる。

運営委員会の中で、子ども・学校・NPO・地域・PTA が一つの企画推進を行うことは地域組織の協働の姿として、特筆すべきものである。みんなで考えることで、地域課題をみんなで乗り越えることができる一つの大きな成果として、玉川にうねりを起こしたい。

5. 事業計画

○運営委員会の組織づくり

・学校・PTA・連合町内会・子ども・NPO で計画を練っていく。実施まで4回程度の会合の予定。この中で、今までそれぞれの組織がバラバラで存在していた玉川地区に、協働することが地域おこしの出発点であることを理解してほしい。この協働の体験が次へのステップにつながると思う。

・この中で特筆すべきは、NPO と子どもの存在である。NPO はいわゆる「まち」の人間であり、「まち」との協働が中山間地開発には不可欠である。もう一つの子どもの参画は、次世代を担う人材にぜひ地域おこしのキーパーソンになってほしいと願うからである。大人は子どもには力がないと思いがちであるが、子どもの意見を引き出し、育てることこそ大人の役割である。

○玉川探訪ツアー

「まち」からの参加者は5つのコースに分かれ、玉川の文化、産業、自然、歴史を子どもがガイドのもと体験する。現在考えているコースは「東河内歴史散策コース」安倍七騎の上落合大石五郎右衛門の伝説や柿島の朝倉氏、奥池ヶ谷城などにまつわる話を地元の古老から聞く。ここでは市民グループ安倍奥の会にコデーネトをお願いする予定。「森林学習コース」ではかつて玉川の一大産業であった林業の歴史や現在の森林問題などを山を歩きながら地元林業家に聞く。そのほか「お茶学習コース」「西河内民俗散策コース」「そば打ち体験コース」など、玉川の自然や産業を体験しながら学ぶ。

○シェアリングとワークショップ

・午後は体験してきたことをグループごとマップにまとめ、シェアリングを行う。場所は玉川小学校体育館を予定している。

・ワークショップでは昔と今のかかわりマップをもとに、NPO 法人開発教育 FUNCLUB が「まち」と「在」とのつながりが昔は多様、今は統一されてきていることをみんなで気づき、新しいいつながりの必要性を参加者全体で考えていく。

6. スケジュール

6月 第1回健全育成会運営委員会・・・具体的な内容の提案と役割分担

- ・学校では各コースの担当決めと授業の中で内容の探求を行う。
- ・各コースの内容の具体化
- ・それぞれの担当の進捗状況の把握
- ・広報の方法
- ・行政へのお願い

9月 第2回健全育成会運営委員会・・・進行状況の確認・課題点の明瞭化と解決の方法

- ・広報の準備
- ・移動方法の手配（バス等）
- ・行政に運営委員会に参加してもらい、行政サイドの意見を聞く。
- ・参加者の募集（地区住民の参加推進と「まち」からの参加者募集）
- ・学校の授業では具体的なガイドの指導

10月 第3回健全育成会運営委員会・・・当日の確認・参加者の人数把握・各コースの人数把握
11月 健全育成大会

第4回健全育成会運営委員会・・・ふりかえり、報告書の作成、今後の推進の方向性

7、実施体制および主要スタッフの経歴

団体名：玉川学区健全育成会

- 会長 内野昌樹
- 茶・わさび・シイタク農家。平成20年度、21年度連合町内会会計を勤める。その他、第35分団分団長、平成18年度静岡市立玉川小学校 PTA 会長など歴任。平成20年度より、玉川地区健全育成会会長 全体の総括
- 副会長 連合町内会から2～3名
地域とのつなぎ役を担当する。
- 副会長 白鳥好久
- 玉川小・中学校 PTA 会長。主に PTA の活動への協力体制をつくる。
- 事務局 肥田進・
- 玉川小学校教頭、NPO 法人開発教育 Funclub 代表。企画運営
- 事務局 角納正人
- 玉川中学校教頭 会計
- 運営委員 玉川小学校・玉川中学校から各1名
学校の子どもの総合的な学習を担当する。子どもたちの社会参画の具体的な進捗を授業の中で行う。
- 児童生徒から若干名の運営委員を選出し、子どもたちの意見を企画に生かす。

8、特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績など）

玉川地区健全育成会は主に学校・PTA が中心となり、連合町内会と協力して学区クリーン作戦などを毎年実行してきました。玉川学区では連合町内会や社会福祉協議会など、様々な組織はありますが、それが住民参加の体制になっていないことが課題です。住民は内心では少子高齢化で地域住民がどんどん減り、地域の活力が削がれていくことに対して危機感を覚えてはいますが、では、どうするかを議論する場所はありません。地域活性化のキーになるのはやはり人です。その中心となるべき人が高齢化し、なかなか活性化できないようならば、やはり、「まち」から人を地域に参加させるしかないでしょう。耕作放棄地や空き家など、整備すればぜひ住んでみたい、農作業をしてみたいというニーズはあなのです。それが証拠に、中山間地振興課で募集した空き家の利用には多くの入居者が殺到しています。現在、玉川の地域社会がどのような関わりのもとに成立していたか、現代社会との違いは何かを地域住民にヒアリングし、関わりマップを作成中です。その中で気づいたことは昔はお茶や木材などの産業を通じ、多くの村人同士の共存関係が見られ、「まち」との関わりも行商や一日かけての買い物、商売先の材木間屋、茶商など、関わりのチャンネルが多岐にわたっていることが分かってきました。この「在」と「まち」には単線化され、大変希薄な関わりになってきていることが分かってきました。この「在」と「まち」には新たなつながりを構築しなくてはなりません。今回の企画はまさに「在」と「まち」の新たなつながりを構築する旅なのです。言ってみれば新たなツアーリズム、地域住民の顔の見える、心と心がつながったツアーリズムといえるかもしれません。健全育成会は地域住民と学校、PTA が参加している地域で唯一のゆるやかな組織です。ここを扇の要として、あらたなつながりを構築すると共に、子どもたちの社会参画を図ることが今回の企画の大きなポイントなのです。

協働パイロット事業 (H22) 見積書

団体名： 玉川学区健全育成会

企画のタイトル：住んでよし・訪れてよしの玉川にしよう

項目	金額	説明
貸し切りバス代 (3台)	¥180000	@60000×3
チラシ代	¥20000	紙・印刷インク代
文房具	¥10000	模造紙・マジック・ポストイット 画用紙など
材料費	¥20000	そば粉・小麦粉・お茶代・混合ガソリン などフイールドワークで使うもの
その他雑費	¥8095	ワークシヨップ・フイールドワーク検討 の過程で必要なもの
小計 A	¥238095	
消費税 B=A×0.05	¥11904	
合計 A+B	¥249999	

◎実費弁償契約の希望の有無 有 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金額	主な用途
¥5000	@¥500	保険料

企画提案の概要書

提案団体名	玉川学区健全育成会
企画案のタイトル	住んでよし・訪れてよしの玉川にしよう
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内でご記入ください。)	現在、中山間地では少子高齢化が進み、限界集落に入る集落も少なくありません。玉川地区も同様の問題を抱えています。しかしこのような問題を住民だけで解決することは困難です。住民が高齢化し、地域活動への参加が鈍くなっているからです。次世代の地域を担うのは子どもたちです。子どもを主体として、地域、学校、PTA、NPOそして「まち」の人たちが参加する枠組みをつくることから中山間地の活性化はスタートすべきだと考えました。これらの人々が企画に参加し、子どもたちが主役となって「まち」の人たちにふるさと玉川を紹介し、玉川ツアーのコーディネートをする。このことは、子どもたちや地域住民の郷土愛を高めると共に、新たな絆をつくことになるでしょう。また、「まち」の人にとって見れば、市街地からわずか40分程度のところに愛すべき文化や自然をもった美しい地域が存在することを人との交流から知ることになるでしょう。
金額	¥249999

《注意事項》

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- ・ 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- ・ 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- ・ htmlで表現できない複雑な表現方法はご利用できません。